

「希望 (のぞみ)」の学習を通して、様々な人々とともに、積極的に、粘り強く課題解決に取り組む中で、社会において有為な人となるべく自己の向上をはかる子どもの育成を目指します！

運営指導委員会の指導を受けて

本学校園では、研究開発の方向性について外部の先生方の専門的な見地からご指導いただくため、運営指導委員会を年間 3 回 (研究会を含む) 開催しています。

< 運営指導委員の先生方 >

- 小原 友行 先生 (福山大学人間文化学部教授)
- 天笠 茂 先生 (千葉大学教育学部特任教授)
- 無藤 隆 先生 (白梅学園大学大学院特任教授)
- 深澤 清治 先生 (広島大学大学院教育学研究科教授)
- 朝倉 淳 先生 (広島大学大学院教育学研究科教授)
- 中村 正博 先生 (広島県教育委員会教育部義務教育指導課課長)
- 有木 浩城 先生 (広島県東部教育事務所教育指導課課長)
- 梶山 幸範 先生 (三原市教育委員会教育長)



本年度の第 1 回の会を 7 月 14 日 (金) に開催しました。運営指導委員の先生方には、研究の進捗状況の報告や提案授業に対するご指導・ご助言をいただきました。

主な指導内容は、「公立学校で進めている『学びの変革』と本学校園での研究との関わりを明確にする。」「態度・価値観について子どもの成長が分かる姿で示す。」「子どもの主体性を大切にしている良い。」「共生・参画という言葉子どもなりの言葉に置き換えて共有できるとよい。」「『希望で育った子ども』を具体的な子どもの姿で提言する。」などでした。

ご指導いただいたことをもとに、「希望 (のぞみ)」及び保育・教科の中で、幼小中の教職員が一体となって取り組んでいきたいと思えます。

「希望 (のぞみ)」では、次の資質・能力や価値観の育成を目指しています！

※下記に示すのは、最高学年の 9 年生時に目指す姿です。子どもたちは、毎時間の振り返りの中で、このような目指す力が付いたのかどうかを自己評価や相互評価をしながら学習を進めています。

○ キャリアプランニング能力 (なりたい自分になる力)

「役割や仕事に責任をもって取り組んだり、意欲をもって学んだりしながら、自分と社会とのつながりについて考え、自分の将来や生き方を描くことができる。」

○ 人間関係形成・社会形成能力 (関係を構築する力)

「相手の立場や気持ちを尊重しながら考えを分かりやすく伝え合ったり、相手の考えから自分自身を客観的に見つめたりするとともに、全体の状況を見通しながら、集団のさまざまな意見に折り合いをつけ、全体の意見としてまとめていくことができる。」

○ 課題対応能力 (達成へ向かう力)

「地域社会とのかかわりの中で、新たに挑戦してみたいことを見つけて、見通しをもって計画立案を繰り返し、自ら目標を決め、最後まで行動することができる。」



○ 自律

「『なりたい自分』に向かって目標をもち、最後までやりきる大切さに気づく。」

○ 共生

「様々な人とかかわる中で、相手の気持ちを尊重しながら伝え合うことの楽しさや大切さに気づく。」

○ 参画

「よりよい集団や社会をめざし、自らすすんで問題を見つけ、その解決に向けて具体的に計画・立案・実行することの大切さに気づく。」



3つの部会から研究授業を提案

一昨年度から、「希望（のぞみ）」の時間だけでなく、全ての授業を通して前記の資質・能力や価値観の育成を目指しています。今年度は、運営指導委員の先生方に希望（のぞみ）及び教科（数学科）の研究授業を参観していただきました。

「希望（のぞみ）」幼小接続期部会 （2年生）『みんなでいっしょに（1・2交流）』



やさしさがいっぱいがあると、友だちが
ふえるし、学校が楽しくなるね。

人にやさしくすると、自分のことや
人のことも考えられるようになり、
お勉強も分かるようになるよ。



①1年生との交流会を
計画・実践し、相手の思い
を受け止めながら活動し
たり最後まで役割を果た
したりすることができる
子ども、②「やさしさ」に
ついて振り返ることで、自
分の見方を深め、自分た
ちの生活を豊かに改善す
ることができる子どもの育
成をめざして、実践を行
いました。

「希望（のぞみ）」小中接続期部会 （6年生）『奏でよう！自分物語～修学旅行編』

①修学旅行に向けての計
画、実践、振り返りの活動
を通して、その場の状況に
応じて、仲間の考えを受け
止めたり、建設的に考えを
まとめたりして、最後まで
自ら動くことができる子
ども、②自分たちの修学
旅行がたくさんの人
の支えから成り立っている
ことに気づき、その感謝
の気持ちを自ら表そうと
する子どもの育成を
めざして、実践を行
いました。

7年生が経験していない外国人への
インタビューも紹介しようよ。



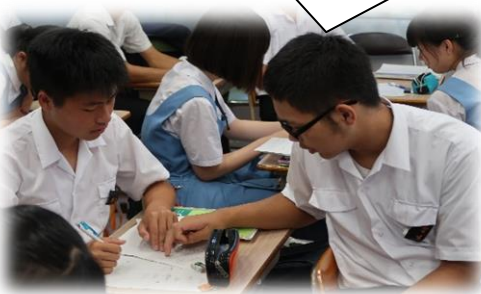
どういふ方法で修学旅行の学びを報
告しようかな？

保育・教科部会 （数学科9年生）『2次方程式』



「ある」、「ない」どちらが多いだろ
うか。すべて検証して確認しよう。

「ある」、「ない」の原因はこの構造
に秘密があると思うんだけど・・・



2次方程式を解の存在
の観点から考察する授業
を行いました。解が「あ
る」、「ない」ことのど
ちらが起こりやすいのか
を予想し、実際に検証し
ていく活動を行う中で、
「ある」、「ない」の
原因を探求し、他者に
説明を行う姿が見られ
ました。

「研究開発だより」（カラー版）をHPに掲載していますので、併せてご覧ください。

<http://www.hiroshima-u.ac.jp/fmihara/kenkyu/>